



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

## 目 次

平成18年度附属図書館実績報告 及び平成19年度計画について .....	1
香港科技大学、シンガポール国立大学訪問記 .....	5
新しい図書館サービス .....	8
平成18年度特別図書一覧 .....	10
館長と話そう！2006への図書館の対応 .....	11
本学教員著作物寄贈リスト .....	13
利用者から見た図書館 .....	14

## 平成18年度附属図書館実績報告及び平成19年度計画について

### はじめに

平成18年度から始まった総人件費改革による厳しい財政状況は、大学運営の様々な面に影響を及ぼしている。図書系職員においては平成21年度までの4年間に9%以上の人員削減が課せられているところであり、全学の図書館組織・運営について大幅な見直しが不可欠となっている。また、研究開発機能についても支障を来たしかねないことが危惧されている。

一方、次世代学術コンテンツの構築を全国規模で進める国立情報学研究所（NII）と大学等との連携プロジェクト、最先端学術情報基盤（CSI）事業は、3年計画の2年目が終了した。本学はCSI事業の先導的の大学として、コンテンツの充実やシステム開発を進めるとともに、地域における連携の中核として、連携活動にも取り組んだ。

法人化後、3年目が終了し、平成18年度実績報告書のとりまとめと平成19年度計画の策定が進められたが、附属図書館においても従来と同様、独自に実績報告書と年度計画書を策定した。その中から、特徴的な事項について以下に紹介する。

### ・平成18年度事業実績報告

#### 1. 学習教育支援

##### 1) 学習用図書の整備

管理経費が20%大幅に削減されたなかで、資料購入費については前年度と同額の予算が措置され、ほぼ例年どおりの学生用資料を整備することができた。蔵書整備アドバイザーによる学生用図書の点検は、未点検分野の点検方法を改めた結果、大きく作業が進展した。蔵書整備アドバイザーによる蔵書点検の効果は、貸出冊数等でもその効果が確認されており、引き続き第2期の点検を開始した。

##### 2) 教育支援サービス・情報リテラシー教育

###### 図書館ガイダンスの開催

図書館利用、文献探索法、データベースや電子ジャーナルの使い方等のガイダンスを昨年より26回増やして、87回開催した。

###### パスファインダーの作成

平成18年度も継続して作成し、新たに15のテーマを追加した。パスファインダーは、NAGOYA Repositoryにも登録されており、アクセス数が非常に多い。

###### 就職コーナーの整備

全学同窓会より昨年度に引き続き学生の就職

関係資料の整備経費が認められ、資料の追加、新版への切り替えを行った。

#### 学生からの要望への対応

平成18年度の「館長と話そう！」の中で学生から強い要望のあった土日祝日の研究個室と共同研究室の開室を試行した。平成19年度からは正式運用することになった。(本号11頁及び図書館ホームページ<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/news/archive/na1.html#332>を参照)

## 2. 研究支援・学術情報基盤整備

### 1) 学術デジタルコンテンツの整備

#### 電子ジャーナルの整備

学術情報基盤としての電子ジャーナルについては、毎年の値上がりに対応するため、大手4社の2007年分から電子版だけの契約に切り替えることにした。ただし、このような購読額維持方策も2008年までしか有効でないことが予想され、大学の責任において学術情報基盤を整備するという観点から、財政基盤強化方策を検討していく必要がある。平成19年度から従来予備費(間接経費)で措置されていた電子ジャーナル導入経費等の一部が本予算の中で事項として認められたことは、その第一歩である。

しかし、電子ジャーナルを含む学術雑誌は、毎年5~9%程度の値上げがあることから、値上がりに対応する予算措置が必要である。

現在利用可能なタイトル数は、約14,400誌であり、昨年度から1,165誌増加した。利用も確実に増えており、全文表示件数は前年度比22%増となった(図1)。バックファイルについて



図1 EJタイトル数と全文表示件数の推移

は、Natureが1950年版から利用できるようになった。

#### 資料の電子化・データベース化

平成18年度も科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を受け、エココレクション(環境共生)データベースの整備を進めた。メタデータの整備を行う一方、特に「木曾三川流域環境史GIS(地理情報システム)」について、GISデータ、古地図及びハザードマップ等の追加、CGや動画の改良に取り組んだ。

### 2) 最先端学術情報基盤(CSI)事業への参加とNAGOYA Repository及びAKFの取り組み

#### NAGOYA Repository

機関リポジトリの課題は、学術コンテンツの充実、拡大であり、そのためには研究者の積極的な関与が不可欠である。平成18年度は研究成果の登録を促進するために「研究者協力コミュニティ」の形成に取り組んだ。これは、機関リポジトリに積極的に協力する研究者のコミュニティで、現在76名の研究者に参加していただいている。

もうひとつ重点的に取り組んだのが、学位論文の収集である。新しく提出される学位論文については、個々の取得者に直接働きかけるよりも、研究科単位で論文提出時に登録を依頼する仕組みの方が効果的であることから、部局図書室等を通して研究科に申し入れを行った。その結果、いくつかの研究科で理解が得られ、既に手続きが開始されたところもある。NAGOYA Repositoryには、種々のタイプのコンテンツを蓄積しているが、コンテンツのタイプに対応した収集方法を採用することが重要である。

#### 学術ナレッジ・ファクトリー(AKF)

AKFは、本学が作成・保有するデジタル情報資源の統合的な検索環境を提供するサービスで、NAGOYA Repository、エココレクション、名大Webサイト情報プラム及び名大の授業に蓄積された情報資源のメタデータを収集して、統合的に検索できるようになっている。平成18年2月28日に一般公開された後11,398件のメタデータを追加した。新たに、<名大システム>古典籍内容記述的データベースも収集対象とすることにしている。

### 東海地区CSI事業報告会

国立情報学研究所、附属図書館及び本学情報連携基盤センターの共催で、標記報告会を3回にわたり開催した。附属図書館多目的室では、第2回に「大学における学術機関リポジトリの構築に向けて」と題した報告会を開催した。NII、図書館、研究者のそれぞれの立場から見た機関リポジトリの構築について議論した。参加者を全国から募り、76名の参加者があった。

#### 東海地区学術機関リポジトリ実務担当者会議

東海地区の国立大学における機関リポジトリ構築を支援・連携するために、標記会議を本学で2回開催した。実施大学の状況やCSI事業への参加等について情報交換を行った。

### 3) 研究用資料の整備

オーエン、ベンサム、マルサス等イギリス近代思想史の研究者である永井義雄名誉教授から蔵書約5,500冊の寄贈を受けた。この中には、本学の貴重図書の基準となっている1820年以前に出版された資料が250点、ベンサムの自筆書簡やオーエンが発行した労働紙幣等も含まれている。本学には既にホップズコレクションやリトルトンコレクション等イギリス近代思想史関連のコレクションがあるが、この蔵書の受贈によって、さらに充実が図られることになった。できるだけ早く整理を済ませて関係の研究者の利用に供したい。



写真1. ベンサム自筆書簡

### 3. 社会貢献・社会連携

#### 1) 資料展示会・講演会

春季(『地獄物語』の世界)、秋季(江戸時代の村と地域)の2回の特別展を開催。春季特別

展では、『地獄物語』の本文を翻刻・注付で閲覧できる電子展示「『地獄物語』の世界」([http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/e\\_collect/jigoku/jigoku\\_flash.html](http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/e_collect/jigoku/jigoku_flash.html))も同時に公開した。また、日本とEUの交流事業の一環として、EU資料センターとの共催で展示会「西洋の発見」を開催した。期間中の入場者数は3回の展示会で延べ2,120名、講演会389名で合計2,509名となり、過去最高だった平成17年度を13.8%上回った。

#### 2) 東海地区図書館協議会の活動

平成17年7月から始まった相互利用サービスは、平成18年度末で大学図書館21館、公共図書館59館が参加している。平成18年5月からは、愛知県図書館と本学を含むいくつかの大学図書館との間で資料搬送の実証実験がスタートした。このサービスでは、利用者は郵送料を負担することなく相互貸借や複写サービスを受けることができる。本学では、従来県立図書館との相互貸借は、部局図書室で個別に実施されていたが、これを中央図書館に一本化することによって、このサービスの恩恵を全学に拡大した。この実証実験は平成19年度も継続される。

#### 3) 「図書館友の会」の活動

平成18年度末の会員数は237名で、前年度とほぼ同数である。恒例の「ふみよむゆふべ」は4回開催され、延べ162名が参加した。毎回40名前後の参加者があり、友の会の行事として定着している。

### 4. 業務運営の改善・施設設備の整備

#### 1) 機関別認証評価

本学は平成19年度に機関別認証評価を受けることになっており、平成18年度は自己評価書の作成が進められた。附属図書館は平成17年度独自に自己点検評価を実施しており、評価書の作成にあたっては、その評価結果を活用することができた。

#### 2) 古川保存書庫の改修

部局図書室を含む保存書庫として利用している古川記念館の耐震改修のため、書庫の移転先について施設管理部等と協議を進めた。今年秋

の改修時期までに、移転先の決定、資料の処分・移動等の作業を完了する必要がある。

### ・平成19年度附属図書館年度計画

平成19年度は法人化4年目であり、第1期中期目標・計画の評価への対応、次期中期目標の準備等が始まる。また、機関別認証評価への対応が並行して進むことになる。附属図書館の平成19年度年度計画についても、これらのことを念頭において、中期計画期間の課題全てに取り組みという形になっている。事項数は、昨年より13項目増加しており、特に新規事項が増えている点が特徴となっている。以下、新規、変更事項を中心に紹介する。

#### 1. 学習教育支援

学生のための英語による教科書を整備する。

教科書として利用される英語原著を中央図書館に備え付けてほしいとの申し出が教養教育院からあり、教員推薦図書として収集することになっている。留学生はもとより、学部学生の利用も想定している。

#### 2. 研究支援

学内関係部局と連携し、GISに関する国際研究集会を開催する。

日本学術振興会が助成する国際研究集会として、古地図GISに関する国際研究集会が採択された。平成19年8月に開催することで、学内関係部局と連携をとる。

#### 3. 業務運営の改善

「附属図書館将来構想」に基づき、中央図書館、医学部分館及び部局図書室の充実を図るとともに適切な連携・統合を図り、附属図書館全体の管理運営体制の整備を図る。中央図書館、医学部分館と連携した特徴ある部局図書室ないしはサテライト図書室のあり方を検討する。迅速、的確な意思決定を全学的観点から行えるよう附属図書館長の職務を見直す。

ここに挙げた事項はすべて図書館の組織、運営の見直しに関わるものである。これらの課題について、検討を開始し、業務処理のさらなる集中化、適正な人員配置等々を図る。

上述したように総人件費改革による厳しい人員削減に対応するためには、大学全体として図書館の組織、運営体制の見直しが不可欠であり、より効果的、効率的な図書館運営の実現を目指す必要がある。

4. 施設設備

#### 4. 施設設備

中央図書館の外壁改修を継続し、またESCO\*事業導入作業を進める。

平成18年度の調査で外壁タイルに亀裂が入っていることが発見され、旧館部分について全面的な改修が必要となった。安全性に関する事項であるため、早急な対処が求められている。また、老朽化した空調設備を更新する方策として、本学ではじめてESCO事業を導入すべく、施設管理部と協力して対処する。

\*Energy Service Companyの略

#### 【参考文献】

- (1) 川添真澄 「エココレクション(環境共生)データベースの現状と今後の課題」 『館燈』No.161
- (2) 渡邊俊彦 「学術機関リポジトリの現状と今後の課題」 『館燈』No.162
- (3) 松原茂樹 「学術機関リポジトリを活用する」 『館燈』No.160
- (4) 塩村 耕 「君は地獄を見たか? - 2006年春季特別展「地獄物語の世界」を終えて - 」 『館燈』No.160
- (5) 秋山晶則 「木曾三川流域関連の史料寄贈によせて」 『館燈』No.162
- (6) 企画展ワーキンググループ 「名古屋大学附属図書館・名古屋大学EU資料センター展示会・講演会を開催『西洋の発見 - 幕末維新期の遣外使節と留学生達 - 』」 『館燈』No.162

# 香港科技大学、シンガポール国立大学訪問記

- 学術機関リポジトリをはじめとする先進的学術情報流通の状況について -

棚橋是之、黒柳裕子、山口典子

## 0. はじめに

私たち3人は平成18年度名古屋大学事務職員海外研修により、「学術機関リポジトリをはじめとする先進的な学術情報流通の状況調査」をテーマとして設定し、平成19年1月29日から2月2日までの日程で香港科技大学（Hong Kong University of Science & Technology）とシンガポール国立大学（National University of Singapore）を訪問した。以下、訪問機関ごとに報告する。

## 1. 香港科技大学（1月30日訪問）

香港科技大学（写真1）は、香港の中心部のひとつ、香港島の<sup>セントラル</sup>中環から地下鉄とバスを乗り継いで約1時間の海に面した新界に位置する。訪問したのは新しいセメスターの開始時期で、大学正面のセントラルコートでは学生によるサークル歓迎行事がにぎやかに行われていた。



写真1. 香港科技大学正面

### 1.1 李兆基図書館

李兆基図書館の建物は5階建てで、4階部分が入口階（Ground Floor）となっている。4階にはギャラリー、カウンター、Information Commons（写真2）がある。Information Commonsは、昨年9月にレファレンスカウンター横に開設され、学内者向け統合端末が50台、ネットワークプリンタ、ネットワークスキャナーが設置されている。端末では、論文・レポート作成用のソフトウェアのほか、各種プログラミングツール、ウ

ェブ作成ツール、SPSS、各種視聴覚ソフトウェアが利用可能である。また、図書館で契約している各種データベースも利用可能となっている。単に端末を置いてあるだけでなく、ITヘルプデスクにコンピュータセンター所属のテクニカルスタッフが常駐し、テクニカルサポートが受けられるようになっている。

他の主な特徴として、シラバスや授業で教員が推薦もしくは指定した資料のうち、オンライン版のない資料を配架しているCourse reserveコーナーがある。このコーナーに配置された資料の利用可能期間は、2時間・1日間・3日間のいずれかに限られる。また、セメスター内であれば授業中に指示した資料や講義録も追加して配架できるとのことであった。

図書館のスタッフは、司書約20名、サポートスタッフ約40名で、司書は異動がほとんどないとのことであった。



写真2. 李兆基図書館内のInformation Commons

### 1.2 学術機関リポジトリ

香港科技大学の学術機関リポジトリは、2002年にプロジェクトが開始され、2003年からシステムの運用が開始された。李兆基図書館のスタッフ6名（レファレンスライブラリアン、データ入力担当、カスタマイズ担当）が運用に携わっている。

学術機関リポジトリのソフトウェアは、名古屋大学と同じDSpaceだが、カスタマイズを行うことにより、研究者にとってなじみやすく構築

されていた。具体的には、

- ・コミュニティとコレクションアイテムの総数をサイトマップ形式で表示させている
- ・利用されたコンテンツのTop20についても通常と同様の形式で表示される
- ・出版者版へのリンク：リポジトリに保存できるコンテンツは、出版者の方針により、著者の原稿段階のファイルであることが多いため、出版者版に誘導するアイコンを表示させる仕組みを構築したことなどが挙げられる。

## 2 . シンガポール国立大学 ( 2 月 1 日訪問 )

シンガポール国立大学は、同国中心部のCity Hall駅から地下鉄とバスを乗り継いで約40分の位置にある総合大学である。広大な敷地のため、学内連絡バスが運行されている。

当日は、午前中央・中文の各図書館を、午後School of Computingを訪問した。

### 2 . 1 中央図書館

シンガポール国立大学図書館 ( 写真 3 ) は、中央図書館を含めた7館で構成されている。図書館勤務職員は全学で約150名おり、うち専門司書は約60名である。専門司書は、専門性維持のためほとんど異動はないとのことであった。

中央図書館は地上6階建ての建物で、4階部分に入口・カウンターがある。図書館は2階から6階部分を使用しており、1階部分はオープンスペースになっている。



写真3 . シンガポール国立大学中央図書館遠景

入口付近には香港科技大学と同様、InfoCommonsがあり(写真4)、約50台の端末が設置されている。利用者は予約専用端末により、

ID・パスワードを入力して利用予約(1回1時間)を行う。InfoCommonsにはSchool of Computingの学生が1名常駐し、サポートを行っている。

InfoCommonsに近接して、ソファと飲み物の自動販売機が設置されたPerk Pointがある。ここは、ガラス張りの隔離された空間である。

コピー機での料金支払いにはEZ-Linkカード(公共交通等と共用の電子マネー)またはキャッシュカードを利用しており、全学共通である。なお、返却を延滞した際には延滞罰金が課されるが、その支払いにもキャッシュカード等が用いられている。

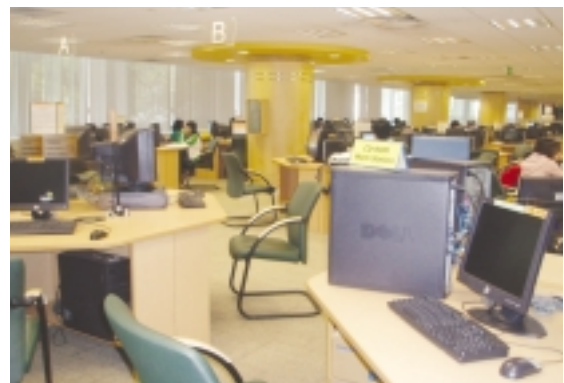


写真4 . シンガポール国立大学中央図書館のInfoCommons

6階閲覧室は試験期間中のみ24時間利用できるが、開館時間外は、Student Unionが専用の出入口のみで対応し、書架への通路は閉鎖される。その他の主な特徴として、

- ・携帯電話の通話が可能なガラス張りのブース(Chat Point)を各階に設置している(写真5)
- ・利用者教育：教員からの要望に応じて図書館員が研究室(ゼミ)に出張して行うほか、図書館内でTutorial timeを設けている
- ・図書館利用者向けのポータルサービスとして、myLINCが提供されている。ここでは、図書の予約、貸出期間の更新、予約の取消などのほか、検索式を保存することにより、新着資料で検索式にマッチしたものが表示されるようになっている
- ・RBR(Reserve Books/Readings)コーナーでは、教員推薦資料の2時間もしくは一夜貸しを行っている。なお、RBR図書の返却が遅れた場合の延滞罰金は通常図書より厳しく設定されている(Guide to NUS Libraries 2006/2007による)

などが挙げられる。



写真5 . シンガポール国立大学中央図書館内のChat Point

## 2.2 中文図書館

中文図書館は、中央図書館と同じ建物群にあり、建物内で相互に往来できるが、メインエントランスは別である。ここでは、一般的な中国・日本関係資料、両国の新聞などを購入・所蔵しているほか、第二次世界大戦以前の日本語資料、Chinese Study（漢学研究）やシンガポール史関連の新聞雑誌をデジタル化したコレクションの構築作業を順次行っているとのことである。

## 2.3 リポジトリ (School of Computingにて)

シンガポール国立大学には全学的な学術機関リポジトリはまだなく、部局単位で2部局が構築しているのみで、ほかに学位論文の電子提出システムがある。これらの開発はSchool of Computingが中心となって行ったとのことであった。

学位論文の電子提出システムは2003年9月から運用を開始した。従来は修士論文の場合3部、博士論文の場合5部の冊子を提出していたが、本システムの運用開始以降は、電子ファイルによる提出に一本化された。このシステムはリポジトリのソフトウェアのひとつであるEPrintsを採用しているが、提出から保存までの一貫したプロセスは独自に構築したとのことであった。ただし、ペーパーレスで全てのプロセスが完結するわけではなく、承認書の提出が必要となっている。いまのところこのシステムに収録され

たコンテンツ（学位論文）は一般公開されていない。これは学位論文を自由にコピーして使われてしまう懸念があるという理由による。

一方、School of Computingの部局リポジトリでは、香港科技大学、名古屋大学と同様、DSpaceを採用している。これは、コンテンツの保管にあたってコミュニティとコレクションの2階層をもてること、タイトル、著者名からの検索が可能であること、アクセスコントロールができること、カスタマイズが容易であることによる。ここには、School of Computingの研究成果であるテクニカルレポート（学外にも公開）、学位論文（前述の登録システムに登録するまでの一時保管）、学生によるプロジェクトレポートを登録している。

最近、School of Design & Environmentでも外部非公開ながら部局リポジトリの運用を開始したとのことである。

## 3.まとめ

図書館については、両大学に共通する特徴として、利用者向けの多目的端末が多数設置されていることが挙げられる。図書館資料（電子化資料を含む）を駆使して学習・教育・研究活動を行い、その成果としてレポート・プレゼンテーション・論文作成が容易にできる環境が整備されている。また、両大学とも名古屋大学より数多くのタイトルの電子ジャーナル、電子ブックが利用可能な環境が整備されている。その他、指定図書制度の整備、携帯電話の通話スペースの確保やコピー機の使用料金の支払いに電子マネーの利用を可能にするなどの利便性の向上にも積極的に取り組んでいる様子をうかがい知ることができた。

一方、学術機関リポジトリについては、日本よりも早く開始した香港科技大学でも全教員へ浸透するにはまだ若干の時間を要する状況であること、シンガポール国立大学は部局ごとに構築している段階であること、学位論文の電子提出システムを構築して、環境を整えば公開して学術情報流通の一端を担うことになるが、盗用の危険性が払拭できないため公開を見合わせているなど越えなければならない課題があることもわかった。

このように、先進的な学術情報流通には、ハード・ソフト双方について積極的な基盤整備が必要であるという印象を受けた。

また、今回の出張において担当者レベルと相互の状況や問題点について意見交換を行ったことは非常に有意義であった。海外から名古屋大学附属図書館見学に来館された際、単に館内を案内するだけではなく、相互の状況について意見交換を行う時間をつくることができたと考えている。

最後に、今回の研修の機会を与えていただいた、豊田前事務局長をはじめとする名古屋大学の関係者ならびに現地で親切に対応していただいた皆様に厚く御礼を申し上げたい。

(たなはし・これゆき 情報連携基盤センター  
くろやなぎ・ひろこ 情報システム課  
やまぐち・のりこ 医学部分館)

### 2007年春季特別展

#### 王権と社会

- 朝廷官人・<sup>まつぎ</sup>真継家文書の世界 -

2007年6月4日(月)~6月22日(金)

9:30 ~ 17:00 (土・日も開館)

・中央図書館4階展示室ほか

・講演会 6月16日(土) 13:00 ~ 15:00

「料紙からみた真継家文書」

講師 富田正弘(富山大学人文学部)

## 新しい図書館サービス

### 電子ジャーナル・アクセスサービスを刷新しました

電子ジャーナル・アクセスサービスは、学内で利用できる電子ジャーナルの一覧です。この4月からリニューアルして、下記のサイトから提供を始めました。

<http://atoz.ebsco.com/home.asp?Id=Nago267C>

画面が大幅に変わったほか、いくつか機能アップしています。今後は新しいアクセスサービスをご利用ください。

- ・無料の電子ジャーナルへのリンクを拡充
- ・国内紀要へのリンク情報を一元化
- ・雑誌のジャンル分けを詳細化



### NULink (本文情報案内サービス) を始めました

文献データベースに、新しいアイコンが表示されるようになりました。

このアイコンをクリックすると、本文情報・蔵書検索などへのナビゲート画面が開きます。リンクリゾルバ(link resolver)と呼ばれるシステムを導入したもので、学内で利用できる膨大な電子リソースに、効率よく確実にたどりつけるようになりました。「NULink」のアイコンを見つけたら、迷わずクリックしてください。



NULink (Nagoya University Link Service 名古屋大学本文情報案内サービス)

NULink (エヌ・ユー・リンク)



( ) PubMedは下記URLで接続した場合のみアイコンが現れます。  
<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?otool=ijpnagoulib>

## CiNii (サイニイ、NII論文情報ナビゲータ) を導入しました

これまで国内論文の検索にはMAGAZINEPLUS を推奨して参りましたが、同時利用に制限があり、ご不便をかけていました。平成19年4月に同等以上の機能を持ち、アクセス制限もないCiNii (機関定額制) を導入しましたので、今後はCiNiiをご利用いただきますようお願いいたします。

CiNiiは国立情報学研究所 (NII) 作成の文献データベースで、学協会誌・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引を統合した書誌レコード約1000万件を収録しています。さらに、そのうち約280万件には本文へのリンクが付いています (2007年3月現在)。

CiNiiは検索機能や本文の一部は無償公開されていますが、機関定額制の導入により、約400誌の本文が新たに利用できるようになりました。

また、予め学内のパソコンから接続し、「サイトライセンス個人ID」を取得しておけば、学外からも学内と同じ範囲のサービスを利用できます。

なお MAGAZINEPLUSですが、CiNiiに収録範囲のずれがありますので、網羅的な文献調査のためには引き続き補完的にご利用ください。同時アクセス数は1になりました。国内論文の検索について、詳しくは下のサイトをご覧ください。



<http://ci.nii.ac.jp/>

附属図書館 > データベース > 国内雑誌記事データベースについて  
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/DBannai/dbjapanese.html>

(情報サービス課参考調査掛)

## 平成18年度特別図書（人文・社会科学系）一覧

1 . Buddhism : critical concepts in religious studies. オリジナル (全8巻)

( 仏教 宗教学の重要概念 )

欧米における最近40年間の仏教学研究から生まれた優れた成果ばかりを精選した論文集。仏教学の国際的な進展の把握、宗教学及び全体的な思想文化研究における仏教の位置付けをはかるうえで最適な書である。

2 . 昭和期前期刊行図書デジタル版集成 CD-ROM ( 5 枚 )

「社会科学部門」( 団体著作物 ) 「教育」分野 ( 教育一般 5-7、教育思想 1-2 )

国立国会図書館が所蔵する昭和期前期刊行の教育図書群のうち「教育一般」及び「教育学、教育思想」分野の図書のデジタル版。発禁書等の「特」の部の文献を含む一大コレクションであり、日本の戦前期を知る資料として、教育学研究者のみならず広い分野の研究者にも有用な資料と言える。

3 . KGSt-Berichte 1971-1992 ( 122 Berichte )

( ドイツ行政事務簡素化のための自治体共同機関報告書 )

KGStは約1,600の自治体を含むドイツ最大の地方自治体府協会で、活動は各自治体に対して、あらゆる局面における指導性、管理、組織化、統治に関してアドバイスをしている。これはその報告書である。国家行政や地方自治行政の組織、活動形態は大きな転換期を迎えており、ドイツの官治的集権的行政の伝統を受け継いだわが国においても、ドイツにおける改革の方向性を探る上で有意義な資料である。

4 . 中外商業新報 第43-54巻 リプリント ( 全12冊 )

『日本経済新聞』の前身であり、中央図書館で所蔵している『中外物価新報』の継続紙で、第1巻から第42巻もすでに所蔵する。経済ジャーナリズムの基礎を築いた新聞の復刻版で、明治期日本の経済状況が克明に判明する基礎的かつ貴重な資料である。

5 . Japan and America, c.1930-1955 : The Pacific War and the occupation of Japan. Part 4: Subject Files, Writings, Speeches, Photographs and Oversized Material. マイクロフィルム ( 17リール )

( 太平洋戦争勃発から日本占領に至る日米関係史 )

太平洋戦争勃発から日本占領期の日米関係史のなかで、第2次大戦及び日本占領期におけるアイケルパーガー将軍の日誌、書簡、軍務関係書類等のマイクロ資料。マッカーサーに次ぐ有力者といわれた彼の資料分析の意義は大きい。

6 . 近代国際関係条約資料集 編集復刻版 ( 全22冊 )

近代の外交史上に名をとどめている条約は全て網羅しており、また欧米ばかりでなく、アジアや旧植民地に関連する条約もひろく収録されている。さらに国際関係を理解するための関連資料として、条約に準ずるような諸文書、決議、宣言なども収録している。文書は、原文と訳文を収録しているが、各巻ごとに編者による解題を附し、各条約・文書の内容を要約した説明がされており、この解題だけでも外交史の通史となりうるように論述されている。

7 . Media and communication. オリジナル ( 全17冊 )

( メディアとコミュニケーションに関する基礎レファレンス )

コミュニケーション学の学際的な論考、ジェンダーと情報技術の関連を述べたレファレンス、デザインやパフォーマンス、建築など視覚文化研究の重要概念、サイバーカルチャーに関する論考、20世紀の写真史を俯瞰するレファレンスを収録した資料集である。

#### 8. 伊藤圭介関係資料 3件 オリジナル(全45点)

名古屋大学の前身である愛知医学校の設立に寄与した伊藤圭介に関する資料で、『校正本草綱目』『博覧会品物目録』『錦翁九十賀寿博物会誌』からなる。『校正本草綱目』には「伊藤篤太郎蔵書」「上野文庫」の2つの蔵書印と書物の随所に書かれた書き込みや挿入付箋などもある。

~~~~~

## 「館長と話そう! 2006」への図書館の対応について

昨年末の12月8日(金)中央図書館で第4回目が開催され、6名の方から多くのご意見やご要望が出されたことは前号でお知らせしましたが、今回は、その後、図書館はどのような対応を図ったかなどについて、そのいくつかを報告します。

### 1. 中央図書館の各種サービス時間について

研究個室などの施設の予約、利用時間の拡大利用受付を平日17:15以降も可能とし、土・日・祝日も施設を利用したいとの要望がありました。

**[対応]** 中央図書館では、この4月から研究個室、共同研究室、グループ研究室の利用時間について、土・日・祝日も可能とするよう規則を改正しました。また、平日の17:15以降に、これらの施設に未使用の部屋がある場合には、その場で手続きを行い利用できるようにもしました。ただし、翌日以降の予約申請については、今までどおり平日の8:45~17:15の時間内でのみ受付で、変更はありません。

#### 視聴覚資料の貸出について

平日の17:15以降と、土・日・祝日の貸出を可能とするよう要望がありました。

**[対応]** 視聴覚資料は、従来電算機貸出の対象となっていなかったため貸出時間に制限がありましたが、4月からは電算機による貸出を可能とし、バーコード貼付してある図書と同じ時間帯で貸出ができるようになりました。貸出時間は、平日は8:45~21:00<sup>注</sup>、土・日・祝日は8:45~16:30で、受付カウンターで手続きをします。

#### 図書の付属資料の貸出手続き

付属資料は貸出票での手続きが不便との指摘がありました。

**[対応]** 図書に付属するCD-ROMやFDの貸出手続きは、図書本体とは別に貸出票に記入することになっており、また土・日・祝日には貸出の対象外でした。これも4月から貸出票の記入が不要となり、貸出窓口で図書本体と一緒に貸出手続きを行えるようになり、貸出時間は、平日8:45~21:00<sup>注</sup>、土・日・祝日は8:45~16:30となっています。

<sup>注</sup> 平日の貸出時間は、6月1日から以下のように延長します。

- ・ 図書、付属資料の貸出(貸出カウンター)  
8:45~21:30
- ・ 視聴覚資料の貸出(受付カウンター)  
8:45~21:30
- ・ 図書の貸出(図書自動貸出装置)  
8:45~21:50

#### 相互利用の資料の受領・返却

他の図書館から借りた図書の受取りや返却、複写物の受取りを、平日17:15以降や土・日・祝日にも取り扱ってほしいという要望がありました。

**[対応]** 他館の図書は、貸出時も返却時も担当

職員が図書の破損・汚れなども含めて確認し手渡しする必要があります。従って、時間外担当職員が行うことまでの変更はできません。貸出時に、何日の17:15までに返却するよう利用者に伝え、書類に明記することで徹底します。

## 2. 中央図書館の各種サービスについて

### データベースの同時アクセス数

MAGAZINEPLUSの同時アクセス数が少ないので増やして欲しいとの要望がありました。

**[対応]** 4月から同時アクセス制限のないNII(国立情報学研究所)提供の国内雑誌記事データベース「CiNii」(サイニイ)を導入しましたので、使い勝手は向上するものと思います。なお、MAGAZINEPLUSは同時アクセス1に減らしましたが、収録範囲などに違いがありますので、引き続きCiNiiを補完するデータベースとしてご利用ください。

### 利用ガイドシートなどの設置場所

2階のOPAC端末や、データベース利用端末に必要な電子的資料の利用の手引きの置き場所が、端末から離れていて不便であるので改善してほしいとの要望がありました。

**[対応]** 資料の利用法解説「ガイドシート」は2階の端末横に、「情報の道しるべ(パスファインダー)」は3階ホールにそれぞれ配置しましたので、必要分をご自由にお取りください。

### 外国語による利用案内やホームページの外国語表示

利用案内の英語版などが不十分なので、もっと詳しいものが欲しい。OPACの所蔵館表示や、館内表示、ホームページも英語版が不十分であるとの意見がありました。

**[対応]** 中央図書館利用案内の英語版を今年度から作成します。ホームページ上の説明や表示もできるだけ改良を加えていく予定です。その他、ガイダンスも英語や中国語で実施しています。OPACの所蔵箇所等の英語表示への改善は、次の機器更新に向けて検討します。

### 電子的資料の利用ガイダンスの充実

最近の日々増加する電子図書館機能の利用方

法が分かりづらいので、ガイダンスの充実を望むとの要望がありました。

**[対応]** 新学期には、ガイダンスツアーや、OPAC、データベース、電子ジャーナルや電子ブックなどの利用講習会を多数開催していますので、できるだけ参加し、利用に慣れて下さい。

### 中央図書館の蔵書構成

中央図書館には新しい洋書があまり備えられていないとの意見がありました。

**[対応]** 洋書は、基本的には研究用図書として部局図書室に多く備え付けられています。中央図書館では、今年度から教科書などの原書を揃えていくようになりましたので、徐々に増加していくものと思います。

## 3. 中央図書館の利用者のマナーについて

### 利用者の話声などについて

試験期など特に閲覧室での雑談などが迷惑で、グループ学習室内の喋り声も気になるほど大きなこともあるとの声がありました。

**[対応]** 館内でのマナー遵守には図書館としても苦慮しています。職員による巡回指導を毎日行っていますが、とくに試験期などには守られないことが多く、今後も指導を続ける必要があります。グループ学習室の防音設備は万全とは言えませんが、利用者の方も大声はつつしむようお願いいたします。休日にサークルの会合を行うなど目的外利用であればお断りする場合があります。

### 館内の飲食やそのゴミ対策

館内での飲食や2階ラウンジでの飲食が多く、ゴミがたまっていることがあるとの指摘がありました。

**[対応]** 館内での飲食は禁止していますが、違反者の指導に苦慮しています。休日に学内の食堂が開業していないため食べ物を持ち込む利用者も多く、ゴミも溜まります。コンビニエンスストアなどとも協力して試験期や連休などには休日の食事ゴミの回収を行う予定です。利用者の方もできるだけ買ったところで食べたりゴミを捨てるようお願いいたします。

## 本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成19年1～3月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(寄贈者の敬称は略します。)

| 所 属       | 寄贈者名    | 寄 贈 資 料 名                                                                                                                                                                                           | 資料ID     | 配置場所             |
|-----------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|------------------|
| 名 誉 教 授   | 岩 崎 宗 治 | サミュエル・ダニエル詩集：ソネット集ディーリア・ロザモンドの嘆き / サミュエル・ダニエル著：岩崎宗治訳。 - 国文社, 2006.12.                                                                                                                               | 11574863 | 中央学<br>931.5/D   |
| 名 誉 教 授   | 田 浦 武 雄 | 比較教育哲学の展望：高等教育の改革をめぐる / 田浦武雄編著。 - 名古屋大学消費生活協同組合, 2006.12.                                                                                                                                           | 11570880 | 中央学<br>373.1/Ta  |
| 名 誉 教 授   | 阿 部 稔 雄 | 名古屋大学第一外科における胸部外科の歩み / 福慶逸郎, 加藤茂雄, 阿部稔雄編。 - 名古屋外科支援機構, 2007.2.                                                                                                                                      | 11574864 | 中央学<br>494.64/H  |
| 名 誉 教 授   | 中 村 正 秋 | 初歩から学ぶ乾燥技術 / 中村正秋, 立元雄治著。 - 工業調査会, 2005.7.                                                                                                                                                          | 11576397 | 中央学<br>571.6/N   |
| 文学研究科     | 宮 地 朝 子 | 日本語助詞シカに関わる構文構造史的研究：文法史構築の一試論 / 宮地朝子著。 - ひつじ書房, 2007.2. - (ひつじ研究叢書；言語編第47巻)。                                                                                                                        | 11575838 | 中央学<br>815.1/Mi  |
| 教育発達科学研究科 | 今津孝次郎   | いじめ問題の発生・展開と今後の課題：25年を総括する / 今津孝次郎著。 - 増補。 - 黎明書房, 2007.3.                                                                                                                                          | 11574862 | 中央学<br>371.42/I  |
| 工学研究科     | 伊 藤 義 人 | なごや平和公園の自然 2006 / 伊藤義人著。 - なごや平和公園自然観察会, 2007.2.                                                                                                                                                    | 11575839 | 中央学<br>460.7/I   |
| 国際開発研究科   | 西 川 芳 昭 | 地域の自立と持続可能性 / 伊佐淳, 松尾匡, 西川芳昭編著。 - 創成社, 2007.1. - (市民参加のまちづくり；コミュニティ・ビジネス編)。                                                                                                                         | 11566711 | 中央学<br>318.6/I   |
| 環境学研究科    | 岡 本 耕 平 | ハンディキャップと都市空間：地理学と心理学の対話 / 岡本耕平, 若林芳樹, 寺本潔編。 - 古今書院, 2006.12.                                                                                                                                       | 11573286 | 中央学<br>290.173/O |
| 情報科学研究科   | 柳 浦 睦 憲 | Metaheuristics : progress as real problem solvers / edited by Toshihide Ibaraki, Koji Nonobe, Mutsunori Yagiura. - Springer, c2005. - (Operations research/computer science interface series ; 32). | 41423356 | 中央図<br>007.64/I  |

### 自著紹介

『市民参加のまちづくり コミュニティビジネス編 地域の自立と持続可能性』(伊佐淳、松尾匡、西川芳昭編著。創成社、2007年1月)

本書は、創成社の「市民参加のまちづくり」シリーズの完結編です。シリーズは、事例編「NPO・市民・自治体の取り組みから」、戦略編「参加とリーダーシップ・自立とパートナーシップ」、英国編「イギリスに学ぶ地域再生とパートナーシップ」、そしてコミュニティビジネスを扱った本編から構成されています。

自らの住むまたは所属する地域の様々な資源に対するオーナーシップを住民、市民が取り戻し、地域の開発を自らの問題として捉え、参加・行動につなげていくことは、持続可能な社会の形成に不可欠な課題です。本シリーズでは、特に開かれた参加とは何かを議論しています。

参加と合意には大きな調整コストを伴いますが、そのコストを折り込んでも、地域の自律的・持続的な発展には多様な自発的な参加が重要だと考えられます。その仕組みとして近年注目を浴びているNPOなど市民セクターの重要性は言うまでもありませんが、一方で行政や企業など既存のアクターが果たす役割も再認識されるべきでしょう。地域の主体性と事業の持続性を考慮すると、誰もが参加して議論と決定ができる場としかけであり、新しいビジネスモデルといえる地域に根ざしたコミュニティビジネスに期待が寄せられています。

このような議論を紹介したこの本が、プロセスとしてのまちづくりに読者の参加を促すきっかけとなれば幸いです。

(国際開発研究科准教授 西川芳昭)

## 利用者から見た図書館

# 探していない本に会うために

山 崎 健

中央図書館や生命農学図書室に行くと、専門分野に近い分類の本棚をめくっていく。まずは新着図書の棚を回って...、図書館では「けもの道」のように通る道が決まっている。

現在、書籍の電子化が急速に進んでいる。名古屋大学図書館でも電子化が進んでおり、最近の図書館のお知らせには「電子ジャーナル」、「電子ブック」、「データベース」の更新情報が続いている。こうした名古屋大学図書館における電子化の状況については、この「館燈」に詳しく載っている。そして「館燈」のバックナンバーも、図書館のHPからPDFファイルで手に入れることができる。このように、図書館の電子化が進むことは、利用者にとっては非常にありがたい。

一方で、図書館の電子化に対する問題点も指摘されている。ただし、それは著作権や整備コストなど、どちらかといえば管理側における課題が多いようである。では、利用者からみて、図書館の電子化に対する問題点はないだろうか。

私は、電子化によって失われる経験があるのではないかと、思ってしまう。それは、探していない本に会う経験である。OPACやデータベースのキーワード検索により、目的とする文献はすぐに見つけることができるようになった。しかし、キーワードが思いつかない文献は、決して探すことはできないのである。

図書館に行くと、探していた本の周りには本が気になる。探した本のある棚に行くときに、横目に入る本のタイトルが気になる。漠然と本棚をながめてみる。気になった本をパラパラとめくる。ついでに隣の本もパラパラとめくる。結局、探していた本はつまらなくて、探していない本が面白かったということも多い。

これは本屋も同じである。Amazonなどを使えば、宅配ピザが届かない地域でも洋書を届けてくれる。でも、探していない本に会うためには、本屋に足を運ぶしかない。

これからの図書館では、探したい本はすぐ見つかるようになるだろう。しかし、探していない本に会うことが難しくなるように感じる。もしかしたら、こうした問題ですら、連想検索や仮想図書館などの電子化の進展により、将来的には解決され、単なる杞憂に終わるかもしれない。でも、電子化された図書館に慣れてしまうと、実際に図書館に足を運ぶことは少なくなるだろう。

目的とした本を図書館で探すときに、探していない本に会えることがある。探していない本に会えると、図書館の中で気になる本棚が新たにできる。そうすると「けもの道」は少し長くなる。

(やまざき・たけし 生命農学研究科博士後期課程3年)

## ●●●●●●●●●● [ 行事等 ] < 19. 1. 6 ~ 19. 4. 5 > ●●●●●●●●●●

- ・東海地区大学図書館協議会研修会 (平成18-1回)  
(岐阜県図書館) <1/12>、同研修会 (平成18-2回)  
(中央図書館) <3/7>
- ・東海地区学術機関リポジトリ実務担当者会議 (中央図書館) <2/6>
- ・職員海外研修派遣 (香港科技大学、シンガポール国立大学) (棚橋是之、黒柳裕子、山口典子)  
<1/29-2/2>

- 部局動向
- ・中央図書館：土・日・祝日にも研究個室など施設利用を拡大<4/1->

- 編集委員会
- 中井えり子 (委員長) 西尾哲也 (中) 杉浦花菜 (中)  
水野牧子 (中) 畠山輝敏 (教育) 中村啓子 (経済)  
菊池有里子 (数理) 山川幸恵 (生命農学)